
人文地理学関連学会連携協議会ニュース PreNo.1 2005.12.7

ニュースの内容

- (1) 準備会以後の学協会の加入状況等
- (2) 経済地理学会の加入決定
- (3) 日本学術会議の動向
- (4) 今後の課題と活動
- (5) その他

さる11月13日、九州大学で開催しました「人文地理学関連学会連携協議会」の準備会には、多くの学会から参加をいただきありがとうございました。

大変有意義な準備会がもてたと思っております。

つきましては、随時、日本学術会議関連する情報や、人文地理学に関連するさまざまな情報を提供するとともに、今後の活動に向けて相互に意見を交換する場として、このようなニュースを発行していくことにしました。本協議会が正式に発足するのは、春に開催される予定の総会になりますので、それまではPreNoとしておきます。

せっかくこれまでにない人文地理学関連の横断的組織ができるのですから、できるだけ有効な活動に資するものにしたいと思っておりますので、よろしくご支援ご協力ください。

(1) 準備会以後の学協会の加入状況等

九州での準備会でご報告して以後も、呼びかけさせていただいた学協会からご返事をいただいています。現段階で各学会からの加入に関する見解は以下のとおりです。

「検討中」というのは、加入を前向きにご検討いただいているところで、今後、機関決定をいただけるものと思っております。

「加入未定」とあるのは、もう少し本協議会の活動内容を見てから判断したいので、活動状況を知らせてほしいという希望を寄せられている学協会です。

加入をご検討中あるいは未定とされている学協会では、このニュースや添付された議事録をごらんになって本協議会の活動の方向をご判断いただくとともに、それぞれの学協会からして望ましい活動などについてご意見をお寄せください。

これについては、添付ファイルで一覧表にしています。それには連絡先、住所等が記載されていますので、各学協会では誤りがないかお確かめください。（略、別表参照）

(2) 経済地理学会の加入決定

九州での準備会での重要な議論の一つであった、経済地理学会の加入について、11月26日付けで以下の通りのメールをいただきました。

>先日の人文地理学会大会の折りにお話がありました日本学術会議地域研究委員会における分科会の件、経済地理学会会長と評議員に経緯を説明し、意向を聞きました。

その結果、経済地理学会としては、「地域研究委員会」に関して、「人文・経済地理分科会」という名称の

分科会の設置を要望し、人文地理学会と連携して、分科会の活動に積極的に寄与する、という方針が了承されました。

これまでも人文地理学会と経済地理学会とは、奈良での地域大会など、共催企画を行って参りましたが、これまで以上に連携を密にし、地域研究の発展を推進していきたく存じます。

2005年11月26日 経済地理学会代表幹事 松原 宏<

このことを受けて、日本学術会議の碓井照子会員にも同様の要請を行いました。

その結果については、次項をごらんください。

同時に、本連携協議会についても、後に述べるように名称変更等が必要と考えます。

(3) 日本学術会議の動向

12月1日、日本学術会議の第1部地域研究委員会が開催され、その下部にもうけられる分科会について議論されました。その結果について、出席されていた碓井照子、岡部篤行両委員から以下のような連絡をいただきました。

>日本学術会議で「地域研究分野」の会議がありました。

皆様の最大の関心事であろう分科会についてとりあえずご報告いたします。

まず人文地理と経済地理の調整をしていただきました件につきましてはご希望通り「人文・経済地理」分科会を提案いたしましたところ、承認されました。

また地理に関係する分科会としては「地域情報」分科会が承認されました。

ということで、第1部人文社会科学において地理系はこの二つの分科会で活動できるように「なりそう」です。「なりそう」です、と言いますのは、地域研究分野からの分科会の提案は上部組織の幹事会での承認がいり、その承認をまだ受けておりません。その意味で最終決定ではありません。

新装学術会議はトップダウン的ですので修正要求がでるといったこともあり得ます。

なお新装学術会議では分科会の参加は部にとられる必要がありませんので、第2部生命科学、第3部理工学からの会員、連携会員も参加も可能となります。<

以上のとおり、九州での準備会のときに話し合ったとおり、「人文・経済地理」というコンセプトで分科会が設けられる可能性が強くなりました。

碓井・岡部両先生がおっしゃるとおり、最終決定ではありませんが、ひとまずわれわれの願いはかなったということになります。

碓井先生、岡部先生、また高橋眞一先生のご尽力に感謝申し上げます。

(4) 今後の課題と活動

①本協議会の名称について

上記の日本学術会議の分科会が「人文・経済地理分科会」となることにしたが、本協議会の名称も、「人文地理学関連学会連携協議会」から「人文・経済地理学関連学会連携協議会」に変更する必要があります。ただあまりに長々しい名称になるので、簡素に「人文・経済地理学会連合」くらいにしたほうがいいのかもかもしれません。

すでに「地理学会連合」があるので「人文地理学会連合」は遠慮したのですが、「経済」が入ればこのくらいの方がいいかもしれません。

これについては、総会で審議しますが、適切な名称についてお知恵をお貸してください。

②今後の活動について

準備会の席でも意見があったように、単に学術会議の名目的なバックアップをするだけではなく、学会相互の横断的な組織であるメリットを生かした活動、個々の学会では取り組むことができにくい共通の課題に対する活動を企画していかなければならないと思っています。

具体的にはこれから考えていかなければいけないわけですが、たとえば人文地理学会がこれまで課題としながらも、単独学会で行うより、学会共通でできないかと思うものがあります。たとえば

(1) 地理教育についての学会共通のホームページの立ち上げ（以下のような事項を含む）

学校現場で利用できるような地理資料（地図・写真・記録など）の収集と提供

教育実践の資料（授業記録、教案など）の収集

(2) アジアの地理学界との連携

アジア・太平洋圏の各国地理学界，とくに人文地理・経済地理分野での地域研究における共同研究の推進

学会誌や刊行物の交換

(3) 本協議会自体のHPやメーリングリストの立ちあげ

これらについても、ご意見をお寄せください。

(5) その他

①本メールニュースの配布先

本メールを配布しているのは、

・上記の本協議会への加入をよびかけた学協会の代表あるいは担当の方・事務局など（添付した名簿にリストがあります）

・学術会議会員の3名の方

・地理学連合の会長・副会長

・旧学術会議研連の委員（上記の範囲と重複しない方）

各学協会では、必要な方にご転送ください。

以上の配布で問題がある場合は事務局にお申し出ください。

②事務局

準備会での確認のとおり、本協議会の事務局は人文地理学会が担当します。

ご意見は、人文地理学会の秋山庶務理事にお寄せください。

③来年の総会開催予定

来年3月末に行われる日本地理学会春季大会にあわせて総会を開催する予定です。

詳細は、後日お知らせします。